

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	第 108 小委員会
事務局	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA）

### <規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 62368-3 (202X)
対応国際規格番号（版）	IEC 62368-3（第 1 版：2017）
規格タイトル	オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第 3 部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項
適用範囲に含まれる主な電気用品名	直流電源装置（備考：汎用タイプ）
廃止する基準及び有効期間	なし

### <審議中に問題となったこと>

- a) **適用範囲**（箇条 1） 対応国際規格は、IEC 62368-1 の適用範囲に規定する機器に加え、通信ケーブル又は通信ポートを持つ類似する機器も適用範囲に含める横断規格となっているが、電気用品安全法の技術基準の解釈の別表第十二として採用されることを前提とした場合、JIS C 62368-1 の適用範囲以外の機器に適用するには、国内の周知が不十分であるとの指摘があり、審議の結果、この規格の適用範囲を JIS C 62368-1 の適用範囲で規定する機器に限定し、類似する機器への適用は任意とした。
- b) **引用規格**（箇条 2） この規格の適用範囲を JIS C 62368-1 の適用範囲で規定する機器に限定したことにより、対応国際規格では引用している IEC Guide 104 及び ISO/IEC Guide 51（JIS Z 8051）を削除し、JIS C 62368-1 だけを引用規格とした。
- また、対応国際規格では IEC 62368-1:2014 を引用しているが、この規格では、IEC 62368-1:2018 に対応した JIS C 62368-1:202X を引用した。
- c) **用語**（3.1 ほか） 原則として、対応国際規格に可能な範囲で忠実に翻訳し、日本語としての用語の統一を図ったが、必要に応じて、日本語として分かりやすいように意識し、一部の用語で片仮名語を用いて日本語に訳していない場合もある。
- 例えば、英語の“negotiation”は、USB 接続における用語として一般に浸透しており、日本語の訳語を用いた場合、この規格の使用者の誤解を引き起こす懸念もあることから“ネゴシエーション”とした（5.4.1）。
- また、対応国際規格では、“電力を供給する機器（power sourcing equipment）”の略語を“PSE”としているが、我が国においては電気用品安全法で用いる“PSE”と混同するため、この規格では、“PSEq”とした（3.1.1 ほか）。
- d) **注記**（6.3.3.1） 対応国際規格の“Note”にある、特定の国又は地域を指定した参考記述は、この規格では削除した（6.3.3.1）。

### <主な国際規格との差異の概要とその理由>

項目番号	概 要	理 由
1 適用範囲	適用範囲を JIS C 62368-1 の適用範囲で規定する機	我が国の国内基準（JIS、電気

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

	器に限定した。	用品安全法など) に配慮した。
2 引用規格	対応国際規格では IEC 62368-1: 2014 を引用しているが、この規格では、IEC 62368-1: 2018 に対応した JIS C 62368-1: 202X を引用した。 適用範囲の変更に伴い、引用規格より <b>IEC Guide 104</b> 及び <b>ISO/IEC Guide 51 (JIS Z 8051)</b> を削除した。	我が国の国内基準 ( <b>JIS</b> , 電気用品安全法など) に配慮した。
3.1.1	対応国際規格で定義する略語 PSE (power sourcing equipment) を PSEq に変更した。	我が国の国内基準 ( <b>JIS</b> , 電気用品安全法など) に配慮した。

<主な改正内容>

新規提案のためなし。

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器 第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 条 第 1 項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 62368-1 0 0.1.0.1    4.1.2   4.1.3   4.1.5	<第1部> 0 この製品安全規格の原則 0.1.0.1 目的 この規格は、エネルギー源を分類し、それらのエネルギー源に対するセーフガードを規定する製品安全規格であり、さらに、それらのセーフガード適用及び要求事項の指針を示している。 4.1.2 コンポーネントの使用 コンポーネント又はコンポーネントの特性がセーフガード又はセーフガードの一部になる場合、このコンポーネントは、この規格の要求事項に適合するか、要求事項の箇条に規定がある場合は、該当する JIS 若しくは IEC 規格のコンポーネント規格の安全性に関わる要求事項に適合するか、又はこれらと同等以上の性能をもたなければならない。 4.1.3 機器の設計及び構造 機器は、B.2に規定する通常動作状態、B.3に規定する異常動作状態、及びB.4に規定する単一故障状態の下で、傷害、又は火災における物損の可能性を減少させるためのセーフガードを備えるように設計し、構成しなければならない。 4.1.5 この規格で取り扱っていない構造及びコンポーネント この規格で取り扱っていない技術、コンポーネント及び材料、又は構造の手法が内在する機器は、この規格及びこの規格に含	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 条 第 1 項 続き				JIS C 62368-3 箇条 5 5.1      箇条 6 6.1	<p>まれる安全の基本原則で一般的に示す以上のセーフガードを備えなければならない。</p> <p>箇条 5 ES1 又は ES2 の電圧を用いた電力伝送</p> <p>5.1 一般要求事項</p> <p>通常動作状態における PSEq (電力を供給する機器) の最大定格出力電圧は、無負荷状態、通常の負荷状態及び最大定格での負荷状態の下で、意図する通信システムの電源機能仕様の定格限度値を超えてはならない。</p> <p>PD (電力を受けるデバイス) 又はPSEqが電力を供給することができ、かつ、電力を受けることができる場合、5.1～5.4の全ての要求事項を、それぞれ該当するモードに適用する。</p> <p>箇条 6 RFTを用いた電力伝送</p> <p>6.1 一般要求事項</p> <p>RFT回路の導体へのアクセスは、通常、熟練者に制限する。教育を受けた人によるアクセスは、JIS C 62368-1:202Xの5.3.2.1及び5.3.2.2に従って制限する。一般人によるアクセスは、許可しない。</p>	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1 4.1.2 4.1.3 4.1.5	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>4.1.2 前掲略</p> <p>4.1.3 前掲略</p> <p>4.1.5 前掲略</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 62368-1 4.1.3	<第1部> 4.1.3 前掲略	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによつてはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 62368-1 4.1.15  4.8 4.8.2  5.7.5	<第1部> 4.1.15 表示及び説明書 この規格が次のいずれかを要求する場合、附属書Fの関連する要求事項に適合しなければならない。 －表示 －説明書 －指示セーフガード 4.8 リチウム コイン（ボタン）電池を含む機器 4.8.2 指示セーフガード 一つ以上のリチウム コイン（ボタン）電池を含む機器は、F.5に規定する指示セーフガードを備えなければならない。 5.7.5 保護導体電流 次の全ての条件に適合する場合を除き、保護導体電流は、5.2.2.2のES2限度値を超えてはならない。 －保護導体電流は、通常動作状態の下で機器の入力電流の5 % 以下である。 －保護導体回路の構造及びその接続が、次の全てを満足する。	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ，情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項 続き				5.7.5 続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5.6.3に規定する強化セーフガードとして用いる保護接地導体，又は二重セーフガードとして用いる二つの独立した保護接地導体を備えている。</li> <li>・ 5.6.7に規定する信頼できる接地を備えている。</li> </ul> <p>保護導体電流が5.2.2.2のES2限度値を超える場合は，F5に規定する指示セーフガードを備えなければならない。</p>	
				8.4	8.4 鋭利な縁及び角をもつ部分に対するセーフガード	
				8.4.1	<p>8.4.1 要求事項</p> <p>機器のアクセス可能エリアにある鋭利な縁及び角をもつ部分による傷害の可能性を減少させるためのセーフガードは，次による。これらのエネルギー源は，表35の行1によって分類する。</p> <p>鋭利な縁及び角が機器の機能のためにアクセス可能になる必要がある場合，次の全てを満たさなければならない。</p> <p>－あらゆる潜在的な露出部は，生命を脅かしていない。</p> <p>－露出している鋭利な縁又は角は，一般人又は教育を受けた人が明白に認識できる。</p> <p>－鋭利な縁は，できる限り実用的に防護している。</p> <p>－意図しない接触のリスクを減少させるために，F5に規定する指示セーフガードを備えている。</p>	
				8.5	8.5 運動部分に対するセーフガード	
				8.5.2	8.5.2 指示セーフガードの要求事項	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項 続き				8.5.2 続き	運動部分への意図しない接触の可能性を減少させるために、F.5に規定する指示セーフガードを備えなければならない。	
				8.4.5.2	8.4.5.2 メディアを破砕するための電気機械的デバイスをもつ機器	
				8.5.4.2.2	8.5.4.2.2 運動部分に対する指示セーフガード 子供が居る可能性がある場所に設置する機器の場合、指示セーフガードは、理解しやすい用語を用いて、F.5に従って備えなければならない。	
				8.10	8.10 カート、スタンド及び類似の運搬装置	
				8.10.2	8.10.2 表示及び説明書 製造業者が特定の機器とともに用いることを指定しているが、その機器とは別にこん（梱）包して出荷するカート、スタンド又は類似の運搬装置は、F.5に規定する指示セーフガードを備えなければならない。	
				9.3	9.3 熱エネルギー源に対するセーフガード TS2に対する一般人の保護は、9.4.2に規定する指示セーフガードを基礎セーフガードとして用いてもよい。 TS3に対する一般人又は教育を受けた人に対する保護は、9.4.2に規定する指示セーフガードを付加セーフガードとして用いてもよい。	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項 続き				9.4.2	9.4.2 指示セーフガード 指示セーフガードを，F5に従って備えなければならない。	
				10.4	10.4 可視光，赤外線及び紫外線の放射に対するセーフガード	
				10.4.2	10.4.2 指示セーフガード 指示セーフガードは，F5に従わなければならない。	
				10.6	10.6 音響エネルギー源に対するセーフガード	
				10.6.4	10.6.4 人の保護 一般人とRS2との間に要求する基礎セーフガードは，F5に規定する指示セーフガードに置き換えてもよいが，指示セーフガードは，機器上，包装上又は取扱説明書に表示しなければならない。	
				F5	F5 指示セーフガード 指示セーフガードは，次の全ての要素で構成しなければならない。要素 1a（クラス 2 又はクラス 3 のエネルギー源の性質，又はこれらのエネルギー源が引き起こすおそれのある結果を表した記号）にふさわしい記号がない場合，代わりに要素 1b（附属する文書を参照させるための ISO 7000-0434 (2004-01)，又はこの記号と ISO 7000-1641 (2004-01)との組合せ。 このような記号を，組み合わせてもよい。）を用いてもよい。 －要素 1a，要素 2（クラス 2 又はクラス 3 のエネルギー源の性質又はこれらのエネルギー源が引き起こすおそれのある結	



## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項 続き				F5 続き	<p>果、及びエネルギー源の場所を表した文章) 又はこれらの両方</p> <p>－要素 3 (エネルギー源から人体へのエネルギー伝達の結果、起こるおそれのある事象を記載した文章)</p> <p>－要素 4 (人体へのエネルギー伝達を回避するために必要なセーフガード行動を記載した文章)</p> <p>この規格で別途規定しない限り、指示セーフガードの位置は、次のいずれかに適合しなければならない。</p> <p>－指示セーフガード全てを機器上に表示する。</p> <p>－要素 1a, 要素 2 又はこれらの両方を機器上に表示し、かつ、全ての指示セーフガードを附属する文書に記載する。要素 2 だけを用いる場合、文頭に“警告”、“注意”又はこれらと同等の語句を表示する。</p> <p>機器上に表示した指示セーフガードの全ての要素は、人がクラス 2 又はクラス 3 のエネルギー源の部分にさらされる前に視認できなければならない。また、可能な限りこれらのエネルギー源の近くなければならない。</p>	
				JIS C 62368-3 6.3 6.3.4	6.3 電氣的要因による傷害  6.3.4 設置指示書  RFT 回路を用いる機器の場合、設置指示書には、次の全てを記載しなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 三 条 第 2 項 続き				6.3.4 続き	a) RFT 回路電圧値 b) 次の全ての実効静電容量 1) ICT ネットワークの導体間 2) ICT ネットワークの一つの導体と大地との間 c) 設置時に、機器の静電容量を含む全システムの実効静電容量が、図 3 に規定する値を超えないことを確実にするため、システム評価を実施する指示 d) 設置時に、ICT ネットワーク配線の定格電圧が、通常の RFT 回路電圧に重畳する過渡電圧も含めて、適しているか確認する指示 e) 設置時に、一緒に接続される回路が全て RFT-C 回路又は全て RFT-V 回路であることを確認する指示 f) RFT 回路が ICT ネットワークに直接接続されている場合、どの終端を RFT 回路に用いたかを示すように建物配線の終端記録を更新する指示	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  4.4.4 4.4.4.1  4.4.4.1 続き	<第1部>  4.4.4 セーフガードの堅ろう性 4.4.4.1 一般事項 一般人又は教育を受けた人が固体セーフガード（例えば、エンクロージャ、バリア、固体絶縁、接地した金属、ガラスなど）にアクセス可能な場合、このセーフガードは4.4.4.2～4.4.4.9に	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				7.2	規定する関連の堅ろう性試験に適合しなければならない。 7.2 有害物質へのばく露の減少 有害物質へのばく露の減少は、有害物質の収納容器を用いて制限しなければならない。収納容器は、十分な堅ろう性をもち、製品寿命を通して収納物による損傷又は劣化を起こしてはならない。	
				10.4	10.4 可視光、赤外線及び紫外線の放射に対するセーフガード	
				10.4.1	10.4.1 一般事項 機器のランプから紫外線放射にさらされるセーフガードは、機器の寿命が来るまでセーフガードの機能が有効に働くだけの十分な耐性をもつ材料で構成しなければならない。	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1	<第1部>  4.1.4 機器の設置 この規格に規定する機器の評価に当たっては、設置、移設、サービス及び操作に関して、該当する製造業者の説明書を考慮する。  4.1.6 輸送時及び使用時の置き方 機器の使用時の置き方によって、要求事項の適用又は試験結果へ顕著な影響が起こる可能性がある場合は、設置指示書又は使用者への説明書に指定するあらゆる置き方を考慮しなければならない。さらに、可搬形機器の場合は、移動時のあらゆる置き	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第五条 続き				4.1.6 続き	方についても考慮しなければならない。	
				JIS C 62368-3	箇条6 前掲略	
				箇条6	6.3 前掲略	
				6.3	6.3.4 前掲略	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1	<第1部>	
				4.4.4	4.4.4 セーフガードの堅ろう性	
				4.4.4.7	4.4.4.7 熱可塑性材料試験 セーフガードが熱可塑性材料である場合、内部ストレスの開放による材料の収縮又はひずみによってセーフガードの機能が無効にならないように、セーフガードを構成しなければならない。	
				5.4.1.2	5.4.1.2 絶縁材料の特性 絶縁材料の選択及び適用に当たっては、箇条5（電氣的要因による傷害）及び附属書T（機械的強度試験）に規定するとおり、耐電圧、機械的強度、寸法、動作電圧の周波数及びその他の動作環境（温度、気圧、湿度及び汚損）の特性の必要性を考慮しなければならない。	
				5.4.1.4	5.4.1.4 材料、コンポーネント及びシステムに対する最大運転温度	
				5.4.1.4.1	5.4.1.4.1 要求事項	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第六条 続き				5.4.1.4.1 続き	通常動作状態の下で、絶縁材料の温度は、コンポーネントの絶縁材料を含むEISの温度限度値、又は表10（材料、コンポーネント及びシステムの温度限度値）に規定する絶縁システムの最高温度限度値を超えてはならない。	
第七 条 第 1 項	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	■該当 □非該当	JIS C 62368-1 4.3 4.3.2.2 4.3.2.4 5.3 5.3.2.1	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>4.3 エネルギー源に対する保護</p> <p>4.3.2.2 クラス2エネルギー源と一般人との間のセーフガード クラス2エネルギー源と一般人との間には、一つ以上の基礎セーフガードがなければならない。</p> <p>4.3.2.4 クラス3エネルギー源と一般人との間のセーフガード 別途規定しない限り、クラス3エネルギー源と一般人との間には、次のいずれかがなければならない。 －機器基礎セーフガード及び機器付加セーフガード（合わせて、二重セーフガードが構成される。） －強化セーフガード</p> <p>5.3 電気エネルギー源に対する保護</p> <p>5.3.2.1 要求事項 一般人は、次の全ての部分に対して、アクセス可能であってはならない。 －コネクタのピンを除く、ES2の裸の部分。ただし、コネクタのピンの場合であっても、通常動作状態の下で、図V.3のブラ</p>	
第七 条						

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第1項 続き				5.3.2.1 続き	<p>ントプローブによってアクセス可能であってはならない。</p> <p>－ES3の裸の部分</p> <p>－ES3に対する基礎セーフガード</p>	
				<p>JIS C 62368-3</p> <p>5.2</p> <p>6.3.2</p> <p>6.3.2.1</p> <p>6.3.2.2</p>	<p>5.2 電氣的要因による傷害、電力源及びセーフガード</p> <p>ES1及びES2のPSEqは、JIS C 62368-1:202Xの箇条5の要求事項に適合しなければならない。</p> <p>6.3.2 電気エネルギー源へのアクセスの可能性及びセーフガード</p> <p>6.3.2.1 一般人のアクセスの可能性</p> <p>一般人に対して、機器はRFT回路の裸の部分への接触に対する適切な保護があるような構造でなければならない。</p> <p>この要求事項は、通常の配線及び操作をしたときに機器のあらゆる位置において適用する。</p> <p>保護は、絶縁、ガード又はインタロックを用いることによって達成しなければならない。</p> <p>6.3.2.2 教育を受けた人のアクセスの可能性</p> <p>教育を受けた人に対して、アクセス制限エリア（JIS C 62368-1:202Xの3.3.6.9参照）に設置する機器の場合、JIS C 62368-1:202Xの図V.3に規定するブラントプローブによってRFT回路の裸の部分にアクセス可能となってもよいことを除き、一般人に対する要求事項を適用する。ただし、アクセス可能となって</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				6.3.2.2続き  6.3.2.3	<p>もよい部分は、意図しない接触が起こるおそれがないように配置するか、又はガードを備えなければならない。</p> <p>6.3.2.3 熟練者のアクセスの可能性</p> <p>熟練者に対して、RFT回路の裸の部分は、ES1の部分又はES2の部分との（例えば、熟練者が用いる工具又は試験プローブによって）偶発的な短絡のおそれがないように配置するか、又はガードを備えなければならない。</p> <p>この細分箇条に適合するために要求するガードは、サービスのために取外しが必要な場合、容易に着脱可能でなければならない。</p>	
第七 条 第2 項	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  5.2.2	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>5.2.2 ES1 及び ES2 電気エネルギー源の限度値</p> <p>アクセス可能な電気エネルギー源の限度値を規定。</p> <p>表 4－一定常状態における ES1 及び ES2 のための電気エネルギー源限度値</p> <p>表 5－充電したコンデンサに対する電気エネルギー源の限度値</p> <p>表 6－単一パルスの電圧限度値</p> <p>表 7－単一パルスの電流限度値</p> <p>表 8－反復的パルスに対する電気エネルギー源の限度値</p> <p>表 E.1－オーディオ信号の電気エネルギー源クラス及びセーフガード</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七 条 第2 項 続き				JIS C 62368-3 5.4 5.4.1	<p>5.4 PSEqの単一故障状態に対する保護のためのセーフガード</p> <p>5.4.1 PSEqの要求事項</p> <p>単一出力のPSEqの単一故障状態の下では、PSEqの出力電圧は製造業者が宣言した公称出力電圧の130 %を超えず、関連するPSEqの直流電力伝送ポートにおいてES2の限度値を超えてはならない。</p> <p>PDとのネゴシエーションを介して様々な公称出力電圧の範囲を供給できるPSEq（例えば、USBパワーデリバリー仕様に従ったもの）であって、どのタイプのPDを接続するか分からないことがある場合、単一故障状態の下でのPSEqの電圧は、次の要求事項に適合しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ ネゴシエーションした後の公称出力電圧が5 Vを超える回路の場合、その公称出力電圧 の130 %又は7.5 Vのいずれか大きい値を超えないように制限しなければならない。</li> <li>－ ネゴシエーションした後の公称出力電圧が5 V以下の回路の場合、その公称出力電圧の150 %を超えないように制限しなければならない。</li> </ul>	
				5.4.2	<p>5.4.2 PDの要求事項</p> <p>PDは、関連する直流電力伝送ポートに次の電圧の供給を受けたとき、JIS C 62368-1:202Xに規定するいかなる危険も生じてはならない。</p>	



## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七 条 第2 項 続き				5.4.2 続き	<p>－ PDの公称定格入力電圧が5 Vを超える回路の場合、公称定格入力電圧の130 %又は7.5 Vのいずれか大きい値</p> <p>－ PDの公称定格入力電圧が5 V以下の回路の場合、公称定格入力電圧の150 %</p> <p>これらの電圧によってPD内に生じるいかなる部品故障があっても、危険を引き起こしてはならない。</p>	
				6.3	6.3 電氣的要因による傷害	
				6.3.1	6.3.1 電気エネルギー源の分類及び限度値	
				6.3.1.1	6.3.1.1 RFT-C 回路の限度値	
				6.3.1.1.1	6.3.1.1.1 一般事項	
					RFT-C 回路は、本質的な制限によって 6.3.1.1.2～6.3.1.1.4 の電流限度値を満たしている場合を除き、要求電流限度値を維持するための監視・制御デバイス（例えば、バランス制御）を備えることが望ましい。	
				6.3.1.1.2	6.3.1.1.2 通常動作状態における限度値	
					通常動作状態の下で、RFT-C回路は次の全てに適合しなければならない。	
					a) RFT-C回路に電力を供給する機器からICTネットワークに流れる可能性のある定常電流は、いかなる負荷状態においても直流60 mAを超えてはならない。	
					b) RFT-C回路に電力を供給する機器の一つの導体からICTネッ	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七 条 第2 項 続き				6.3.1.1.2 続き	<p>トワークを介して大地に流れ得る定常電流は、直流2 mAを超えてはならない。</p> <p>c) RFT-C回路電圧は、ICTネットワークの線材の電圧定格（この電圧が分かっている場合）に制限しなければならない。</p> <p>d) RFT-C回路の導体間及びあらゆる導体と大地との間の絶縁の電圧定格は、RFT-C回路に電力を供給する機器で最大となるRFT-C回路電圧に適したものでなければならない。これが分からない場合は、絶縁は直流800 Vに適したものでなければならない。</p> <p>この絶縁レベルは、コネクタにも適用する。</p>	
				6.3.1.1.3	<p>6.3.1.1.3 単一故障状態における限度値</p> <p>RFT-C回路の電流は、RFT-C回路に電力を供給する機器内の単一故障状態（JIS C 62368-1: 202XのB.4参照）、又はICTネットワークの一つの導体と大地との間の絶縁故障の下で、図1に示す導体と大地との間及び導体間の限度値を超えてはならない。</p> <p>なお、2秒を超えた後の導体と大地との間及び導体間の限度値は、それぞれ25 mA及び60 mAとする。</p>	
				6.3.1.1.4	<p>6.3.1.1.4 一つの導体が地絡した場合の限度値</p> <p>ICTネットワークに通常接続しているRFT-C回路の一つの導体の予期しない接地（以下、地絡という。）が生じた場合、次の</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七 条 第2 項 続き				6.3.1.1.4 続き	全ての要求事項に適合しなければならない。 ー 外部負荷がいかなる状態の下でも、 $2000\ \Omega \pm 2\%$ の抵抗器を介して測定した他の導体と大地との間の電流は、図1に示す導体と大地との間の限度値（10秒後における25 mAの破線で示す限度値）を超えてはならない。 ー 他の導体と大地との間の開放回路電圧は、6.3.1.1.2 c)及び6.3.1.1.2 d)で決定した最大となるRFT-C回路電圧を超えてはならない。	
				6.3.1.2	6.3.1.2 RFT-V回路の限度値	
				6.3.1.2.1	6.3.1.2.1 通常動作状態における限度値 通常動作状態の下で、RFT-V回路は次に適合しなければならない。 ー 通常、ICTネットワークに接続する各導体と大地との間の定常状態の開放回路電圧は、次のいずれかを超えてはならない。 ・ 直流140 V ・ 6.3.1.2.3に従って大地に流れる電流を制限する監視・制御デバイスを用いる場合は、直流200 V ー ICTネットワークを介して電力を受けるRFT-V回路の絶縁の電圧定格は、導体間では直流400 V、導体と大地との間では直流200 Vの電圧に適したものでなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ，情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第七 条 第2 項 続き				6.3.1.2.2	<p>6.3.1.2.2 単一故障状態における限度値</p> <p>RFTV回路に電力を供給する機器内の単一故障状態（JIS C 62368-1:202XのB.4参照）の下で，通常ICTネットワークに接続するRFTV回路のいずれかの導体を接地させた状態及び接地させない状態で，次の全ての要求事項に適合しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 全ての負荷回路を接続していない状態で，<math>5\,000\ \Omega \pm 2\%</math>の抵抗器の両端で測定した各導体と大地との間又は導体間の出力電圧は，最初の200 msの間，図2の限度値を超えてはならない。</li> <li>－ 200 msを超えた後は，6.3.1.2.1の限度値を超えてはならない。</li> </ul>	
				6.3.1.2.3	<p>6.3.1.2.3 一つの導体が地絡した場合の限度値</p> <p>ICTネットワークに通常接続しているRFTV回路の一つの導体を接地した場合，次の全ての要求事項に適合しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 他の導体と大地との間の開放回路電圧は，200 msを超えた後にRFTV回路の最大供給電圧を超えてはならない。</li> <li>－ 通常動作状態の下での開放回路電圧が直流140 Vを超えるRFTV回路の場合，外部負荷がいかなる状態の下でも，<math>2\,000\ \Omega \pm 2\%</math>の抵抗器を介して測定した他の導体と大地と</li> </ul>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				6.3.1.2.3 続き	の間の電流は、図1に示す導体と大地との間の限度値を超えてはならない。さらに、この電流は、10秒を超えた後は直流10 mAを超えてはならない。	
第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  5.4  5.4.1.2	<第1部>  5.4 絶縁材料及び要求事項  5.4.1.2 前掲略	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  6.3  6.3.1	<第1部>  6.3 通常動作状態及び異常動作状態における火災に対するセーフガード  6.3.1 要求事項 通常動作状態及び異常動作状態の下で、次の全ての条件を満たす基礎セーフガードがなければならない。 ー発火が発生しない。 ー機器のいかなる部分もJIS K 7193で求めた自然発火温度の限度値の90%よりも高い温度（℃）に達しない。ただし、材料の自然発火温度が不明な場合の上限値は、300℃とする。 ー防火用エンクロージャの外側にある部分及びコンポーネントの可燃性材料（電氣的エンクロージャ、機械的エンクロージャ及び装飾部分を含む。）は、少なくとも、次のいずれかの材料の燃焼性分類をもっている。 ・材料の最も薄い部分の厚さが3 mm未満の場合は、HB75 ・材料の最も薄い部分の厚さが3 mm以上の場合は、HB40 ・HBF	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第九条 続き				JIS C 62368-1 6.4 6.4.1	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>6.4 単一故障状態における火災に対するセーフガード</p> <p>6.4.1 一般事項</p> <p>単一故障状態の下で、発火又は炎の拡散の可能性を減少させるために利用可能なセーフガードの方法を規定する。</p> <p>保護を施す方法には、二つある。次の条件の下で、それぞれの方法を同じ機器の異なる回路に適用してもよい。</p> <p>－発火の可能性の減少 単一故障状態の下で、炎を持続する部分がないように機器を設計する。</p> <p>－炎の拡散の抑制 炎の拡散を減少させるため、コンポーネント、配線、材料及び構造上の手段についての付加セーフガードの選択及び適用を行う。必要に応じて、防火用エンクロージャのような第二の付加セーフガードを採用する。</p>	
				JIS C 62368-3 箇条 5 5.3 5.3.1	<p>箇条 5 ES1 又は ES2 の電圧を用いた電力伝送</p> <p>5.3 電氣的要因による火災、電力源及びセーフガード</p> <p>5.3.1 建物配線への直流電力伝送相互接続</p> <p>建物配線を含む通信ケーブル及び PD を含む他のデバイスを保護するために、PSEq は発火の可能性を減少させるために電力を制御し、出力電流を配線システムに損傷を与えない値に制限しなければならない。</p> <p>PSEq の回路は、発火の可能性を減少させるために、JIS C</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				5.3.1 続き	<p>62368-1:202X の Q.1 の有限電源 (LPS) の要求事項に適合しなければならない。</p> <p>直流電力伝送するために建物配線を介して PSEq 回路と他のデバイスとを相互接続する場合であって、リモート接続デバイスがこの規格に適合しているかどうか分からない場合、PSEq は、短絡回路を含むあらゆる外部負荷状態の下で、過熱による損傷を配線システムに与えない値に出力電流を制限しなければならない。機器からの最大連続電流は、機器の設置指示書に規定する最小電線寸法に適した電流限度値を超えてはならない。</p> <p>一つ又は複数の PSEq から電力を受ける複数の入力回路を持つ PD は、通常動作状態、異常動作状態及び単一故障状態の下で、別の PSEq に戻る重量した電力を制御するために、JIS C 62368-1:202X の PS2 又は附属書 Q のいずれかの要求事項に適合しなければならない。</p> <p>線径が 0.4 mm 以上で、かつ、JIS C 62368-1:202X の表 13 の ID 番号の 1 及び 7 に示すような外部回路のペア導体ケーブルに接続する PSEq 回路は、電流を 1.3 A 以下に制限しなければならない。</p>	
				5.3.2	<p>5.3.2 他の機器への直流電力伝送相互接続</p> <p>コネクタで直接又は電線 (フライリード) を介して、直流電力伝送の PSEq 回路に他の PD を相互接続するとき、接続する PD</p>	



## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					<p>が JIS C 62368-1:202X に適合しているか分からない場合、供給電力は JIS C 62368-1:202X の PS2 又は Q.1 のいずれかの要求事項に適合しなければならない。</p> <p>PSE<sub>q</sub> 回路は、PSE<sub>q</sub> の異常動作状態又は単一故障状態のいずれの場合も、供給可能な出力が、電力供給仕様で指定する故障電流定格を超えてはならない。標準インタフェースの仕様に最大故障電流の規定がない場合、利用可能な電流は、次のいずれかの要求事項に適合し、かつ、いかなる状態においても、8.0 A を超えてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電力供給仕様の定格最大出力電流値が 2 A 以下の回路の場合、定格最大出力電流値の 150 %を超える電流が 5 秒を超えて流れてはならない。</li> <li>電力供給仕様の定格最大出力電流値が 2 A を超える回路の場合、定格最大出力電流値の 130 %を超える電流が 5 秒を超えて流れてはならない。</li> </ul>	
				箇条 6	箇条 6 RFT を用いた電力伝送	
				6.4	6.4 電氣的要因による火災	
				6.4.1	6.4.1 RFT 電力源の分類	
				6.4.1.1	6.4.1.1 RFT-C 電力源	
					RFT-C 回路の電力は、最大電流（60 mA）及び最大電圧（通常は 800 V 未満）によって制限されるため、その電力は、一般的	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				6.4.1.1 続き	に PS1 回路の限度値を超え、通常は PS2 回路になる（JIS C 62368-1:20XX の 6.2.2.5 又は 6.2.2.6 を参照）。 RFTC 回路の電力源は、6.4.2 の要求事項に適合しなければならない。	
				6.4.1.2 RFTV 電力源	RFTV 回路の電力は、一般的に PS1 回路の限度値を超え、通常は PS2 回路（PS2 の定義は、JIS C 62368-1:202X の 6.2.2.5 を参照）になる。 RFTV 回路の電力源は、6.4.2 の要求事項に適合しなければならない。	
				6.4.2	6.4.2 火災に対する保護要求事項 RFT 回路の電力は、一般的に PS1 回路の限度値を超え、通常は PS2 回路（JIS C 62368-1:202X の 6.2.2.5 又は 6.2.2.6 を参照）になる。 RFT 回路の電力源は、次の全てに適合しなければならない。 － RFTV 回路からの最大出力及び最大出力電流は、表 1 － ICT ネットワークに供給可能な定常電流は、JIS C 62368-1:20XX の 6.5.2	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこ	■該当 □非該当	JIS C 62368-1 9 9.1	<第1部> 9 熱エネルギーによる熱傷 9.1 一般事項	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ，情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		と等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。		9.2 9.2.1	<p>機器は、熱傷によって生じる痛み及び傷害の可能性を減少させるため、この箇条に規定するセーフガードを備えなければならない。</p> <p><b>9.2 熱エネルギー源の分類</b></p> <p><b>9.2.1 一般事項</b></p> <p>25℃の通常の室温での、通常動作状態、異常動作状態及び単一故障状態の下における熱エネルギー源及び限度値を、9.2.2～9.2.4に規定する。様々なアクセス可能部分の接触温度限度値及び分類を、表38に示す。</p> <p>表38－アクセス可能部分の接触温度限度値</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 十 一 条第1項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	JIS C 62368-1  8.3  8.4 8.4.1 8.5 8.5.1	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>8.3 機械的エネルギー源に対するセーフガード</p> <p>一般人、教育を受けた人及び熟練者がアクセス可能になる部分に対するセーフガードの要求事項は、4.3（前掲）による。</p> <p>8.4 鋭利な縁及び角をもつ部分に対するセーフガード</p> <p>8.4.1 前掲略</p> <p>8.5 運動部分に対するセーフガード</p> <p>8.5.1 要求事項</p> <p>機器の運動部分（例えば、挟込み箇所、ギアのかみ（噛）込み部分及び制御デバイスの予期しないリセットによって動き出す場合がある部分）による傷害の可能性を減少させるためのセーフガードは、次による。</p> <p>プラスチック製のファンブレードは、表35の行3aに従って分類する。プラスチック製以外のファンブレードは、表35の行3bに従って分類する。その他の運動部分は、表35の行2に従って分類する。</p> <p>セーフガードとして用いる安全インタロックは、附属書Kに適合しなければならない。運動部分はその部分がアクセス可能になる前に、MS1に減少しなければならない。</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 十 一 条第1項 続き				8.5.1 続き	<p>別途規定しない限り、指、装飾品、衣服、毛髪などがMS2又はMS3の運動部分に接触する可能性がある場合は、これらの巻き込み又は人体の進入を防ぐため、機器セーフガードを施さなければならない。</p> <p>一般人が機器の機能のためにMS2の運動部分にアクセス可能になる必要がある場合、又は一般人若しくは教育を受けた人がMS3の運動部分にアクセス可能になる必要がある場合、これらの運動部分は、次の全てを満たさなければならない。</p> <p>—あらゆる露出部は、生命を脅かしていない。</p> <p>—運動部分が露出している場合、明白に認識できる。</p> <p>—運動部分は、できる限り実用的に防護している。</p> <p>—8.5.2に規定する指示セーフガードを備えている。</p> <p>—MS3に対しては、手動で操作する停止装置が明確に視認でき、かつ、この停止装置をMS3の部分の750 mm以内の目立つ位置に備えている。</p>	
第 十 一 条第2項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  8.6  8.6.1	<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>8.6 機器の安定性</p> <p>8.6.1 要求事項</p> <p>機器の安定性の評価に当たっては、表 35 の行 5 に従って機器を分類する。</p> <p>ユニットとともに固定する場合、機械的エネルギー源のクラス</p>	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十一 条第2項				8.6.1 続き	<p>は、ユニットの合計の質量によって決定する。再配置（設置場所の変更）のために分離することを意図した機器の場合は、個々の質量で決定する。</p> <p>据置形機器、又は現地で機械的に一緒に固定し、単独では用いないように設計した個々のユニットは、製造業者の説明書に従って設置した後に検査によって評価する。</p> <p>機器は、表 36 に従って 8.6.2（静的安定性）、8.6.3（再配置安定性試験）、8.6.4（ガラススライド試験）及び 8.6.5（水平荷重試験及び適合性）に規定する要求事項及び試験に適合しなければならない。</p> <p>表 36－要求事項及び試験の概要</p>	
第十二 条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  7  7.2	<第1部>  7 有害物質による傷害  7.2 前掲略	
第十三 条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	JIS C 62368-1  10  10.1	<第1部>  10 放射  10.1 一般事項  機器は、レーザ光、可視光、赤外線、紫外線、X線及び音響のエネルギーによって生じる痛み及び傷害の可能性を減少させるため、この箇条に規定するセーフガードを備えなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 十 四 条	使用方法を考慮 した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	4.1.3	4.1.3 前掲略	
				附属書 B	附属書 B 通常動作状態試験、異常動作状態試験及び単一故障状態試験	
				B.2	B.2 通常動作状態	
				B.2.1	B.2.1 一般事項 試験は、次の要素を考慮して最も不利な通常動作状態の下で実施する。 －供給電圧 －供給周波数 －環境条件（例えば、製造業者が指定する最大周囲温度） －製造業者が指定する機器の物理的な設置場所及び可動部分の位置 －相互接続機器による外部負荷を含む動作モード －制御部の調整	
				B.3	B.3 異常動作状態の模擬	
				B.3.1	B.3.1 一般事項 機器、設置、指示及び仕様書を調査し、発生することが合理的に予想できる異常動作状態を決定する。 B.3.2～B.3.7 に記載する例に加えて、該当する場合、少なくとも次の異常動作状態の例を考慮する。 －紙を扱う機器の紙詰まり	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十四条 続き				B3.1 続き	<p>—一般人がアクセス可能な制御部をもつ機器の場合、制御部の一つ又は組合せの調整による最も過酷な動作状態</p> <p>—一般人がアクセス可能な制御部をもつオーディオ増幅器の場合、附属書 E に規定する状態を除き、制御部の一つ又は組合せの調整による最も過酷な動作状態</p> <p>—一般人がアクセス可能な運動部分をもつ機器の場合、運動部分のつかえ</p> <p>—メディアを扱う機器の場合、不適切なメディア、不適切な寸法のメディア及び不適切な数量のメディアの使用</p> <p>—補充可能な液体若しくは液体カートリッジ、又は補充可能な材料をもつ機器の場合、液体又は材料が機器内部にこぼれた状態</p> <p>上記の異常動作状態を行う前に、機器を通常動作状態の下で動作させる。</p>	
				B.3.2	B.3.2 通気口のカバー	
				B.3.3	B.3.3 直流主電源の極性試験。	
				B.3.4	B.3.4 電圧切替器の設定	
				B.3.5	B.3.5 出力端子の最大負荷	
				B.3.6	B.3.6 電池の逆極性	
				B.3.7	B.3.7 オーディオ増幅器の異常動作状態	
				B.4	B.4 単一故障状態の模擬	



## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ，情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 十 四 条 続き				B.4.1	<p>B.4.1 一般事項</p> <p>機能絶縁を含めて，機器の構造，回路図及びコンポーネントの仕様書を調査し，発生することが合理的に予想でき，かつ，次のいずれかの要因となる可能性がある単一故障状態を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－セーフガードをバイパスする。</li> <li>－付加セーフガードが機能する。</li> <li>－その他の機器の安全性に影響する。</li> </ul> <p>次の単一故障状態を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－単一故障状態が起こる異常動作状態（例えば，一般人による外部出力端子の過負荷，又は一般人によるセレクトスイッチの誤設定）</li> <li>－基礎セーフガード又は付加セーフガードの故障</li> <li>－あらゆる 2 線間の回路短絡及びコンポーネントのあらゆる 1 線の開放を模擬したコンポーネントの故障（一度に一つずつ適用する。）</li> <li>－B.4.4 に規定する機能絶縁の故障</li> </ul>	
				B.4.3	B.4.3 モータ試験	
				B.4.4	B.4.4 機能絶縁	
				B.4.5	B.4.5 電子管及び半導体の電極の回路短絡及び遮断	
				B.4.6	B.4.6 受動コンポーネントの回路短絡又は切断	
				B.4.7	B.4.7 コンポーネントの連続動作	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十五条第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	4.3.4  附属書 B	4.3.4 熟練者の保護のためのセーフガード 機器のクラス 3 エネルギー源のサービス中において、熟練者による不随意の反応によって傷害を引き起こす可能性を減少させる目的で、次の二つの間にセーフガードがなければならない。 －サービス中のクラス 3 エネルギー源の近くにある、サービス状態にない他のクラス 3 エネルギー源 －熟練者 附属書 B 前掲略	
第十五条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	附属書 B	附属書 B 前掲略	
第十五条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	附属書 B	附属書 B 前掲略	
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができ	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	5.6.4 5.6.4.1	5.6.4 保護ボンディング導体への要求事項 5.6.4.1 要求事項 保護ボンディング導体は、次のいずれかに適合しなければならない。 －表G.5の最小導体寸法 －5.6.6の要求事項、及び機器の定格電流又は回路の保護電流定	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器—第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第十六条 続き		るものとする。		G.3.4  附属書 B	<p>格が25 Aを超える場合には、表31の最小導体寸法</p> <p>—5.6.6の要求事項、及び機器の定格電流又は回路の保護電流定格が25 A以下の場合には、次のいずれかの要求事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表31の最小導体寸法</li> <li>・附属書Rの制限回路短絡試験</li> </ul> <p>—コンポーネントの場合に限り、そのコンポーネントへの電源供給用導体以上の導体寸法</p> <p>G.3.4 過電流保護デバイス</p> <p>セーフガードとして用いる過電流保護デバイスは、該当するIEC整合JISに適合するか、又は同等以上の性能をもたなければならない。それらがいない場合は、該当するIEC規格に適合しなければならない。</p> <p>附属書B 前掲略</p>	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	4.1.3	4.1.3 前掲略	
第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	—	—	本規格に該当する電気用品に対する雑音の強さは、別規格

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
						(J55032) に従う。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	4.1.15 F3.9	4.1.15 前掲略 F3.9 表示の耐久性、視認性及び恒久性 機器上に要求する全ての表示は、耐久性及び視認性があり、かつ通常の照明環境の下で容易に識別できなければならない。	
第二十条第1号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 （イ）製造年 （ロ）設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				
第二十条第2号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	
第二十条第3号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	

## 技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 62368-3:202X 規格名：オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器－第3部：通信ケーブル及び通信ポートを介する直流電力伝送の安全性要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		(イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				
第二十条第4号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	